

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和7(2025)年度第2回ゼロカーボンシティ推進協議会		
開催日時	令和8(2026)年2月17日(火)午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	市役所庁舎6階 601・602 会議室		
出席者	<p>(会長) 近藤元博 (副会長) 杉山範子 (委員) 濱林順、恒川達也、片岡明博、松尾賢作、山田哲也、野々山淳教</p> <p>(オブザーバー) 新原修一郎 環境省中部地方環境事務所(代理:北川眞也) 長谷川大晃 経済産業省中部経済産業局 天野克則 愛知県西三河県民事務所</p> <p>(みよし市) 海堀経営企画部長、岡田経営企画部参事、鈴木生活環境課長、 内田副主幹、成田主任主査、塚崎産業振興課主幹、加藤主任主査</p> <p>(事務局) 水谷ゼロカーボン推進室長、橋本主任主査、平本主査、北川主事</p>		
次回開催予定日	令和8(2026)年9月頃		
問合せ先	経営企画部企画政策課ゼロカーボン推進室 担当者名 橋本、平本、北川 電話番号 0561-76-5002(直通) メールアドレス zerocarbon@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録全文 ・議事録要約 	要約した理由	
審議経過	<内容> 1 開会 2 議事 (1) 令和7年度の振り返り (2) 令和8年度の施策実施内容 (3) ディスカッション 3 閉会		

<p>《会議録》 1 開会 水谷ゼロカーボン推進 室長</p>	<p>本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 ただ今から「令和7年度第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会」を開催いたします。本日の協議会は、みよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱の規定に基づき会議を公開することとしておりますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。 それでは会議に先立ちまして、海堀経営企画部長よりご挨拶を申し上げます。</p>
<p>海堀経営企画部長</p>	<p>本日は皆様公私ともご多用の中、令和7年度第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 令和7年度における、みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会につきましては、本日が最後の会議となります。 本年度は、市内事業者に対する脱炭素経営の伴走支援や、愛知県内で初めて給食配送用FCトラックを導入するなど、新たな取組を進めてまいりました。 来年度もゼロカーボンシティの実現に向け、さらに取組を推進してまいりたいと考えております。 つきましては、委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から、ぜひ活発なご意見を賜りたく存じます。 簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進 室長</p>	<p>これ以降の議事につきましては、「みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会運営要綱」第5条第1項の規定に基づき、会長が議長となりますので、近藤会長に議事の取り回しをお願いしたいと存じます。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>承知いたしました。 それでは、これより議事に移りたいと存じます。 なお、本日の会議は、委員の半数以上の出席がありますので、有効に会議が開催されていることを報告いたします。 本日の議事は、次第のとおり、(1) から (3) まででございます。 まず、議事の「(1) 令和7年度の振り返り」及び「(2) 令和8年度の施策実施内容」まで、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>2 議事 (1) 令和7年度の振り返り 橋本主任主査</p>	<p>ゼロカーボン推進室の橋本です。 それでは、私より議事(1) から(2) について資料2を用いてご説明いたします。 それでは、「議事(1) 令和7年度の振り返り」についてです。 4ページをご覧ください。 こちらは、ゼロカーボンシティ推進計画に掲げる主な施策と各事業の位置づけです。 本日は、前回の協議会以降に進捗がございました事業についてご説明いたします。主な事業といたしましては、「脱炭素プラットフォーム伴走支援事業」、「公共施設のカーボンニュートラル化事業」、「ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業」、「FCトラック導入事業・導入促進事業」、「普及啓発事業」の5つを抜粋しております。 それでは、順にご説明させていただきます。 5ページをご覧ください。 まず、「脱炭素プラットフォーム伴走支援事業」についてです。 事業概要は第1回協議会にてご説明したとおりとなりますが、市内事業者の脱炭素経営を促進するため、現状把握からCO2削減ロードマップの策定までを市が伴走して支援するものです。</p>

令和7年度は、下の表に記載のとおり、プレス金型製造、ベアリング製造、金属加工などを行う市内企業3社に対し、無料で支援を実施しております。

6ページをご覧ください。

具体的な支援スキームと削減方策についてです。

まず初めに事業所の図面やエネルギー使用状況に関する資料をいただき、その後、エネルギー診断士による現地調査の実施、3つ目に調査結果に基づく削減方策の検討、その後、各事業者様との協議を経てCO2削減ロードマップを策定するという事業スキームとなります。

2つ目の現地調査では、電圧測定によるエネルギーロスの確認や、超音波検知器を用いた「エア漏れ」の確認など、ウォークスルー調査を行いました。

現在は、ロードマップ作成に向けて各事業者と協議を行っている状況です。

資料下部の「主な削減対策」をご覧ください。

こちらは支援対象である3社の主な削減対策です。

短期で投資回収ができるものとしたしましては、「コンプレッサの空気圧の低減」、「コンプレッサ配管のエア漏れ点検」、「コンプレッサのインバーター機への更新」、「デマンド監視装置導入」、「照明のLED化」が挙げられ、投資回収が長期に及ぶものとしたしましては、「エアコンの更新」、「太陽光パネル設置」、「その他機器更新」が挙げられました。

7ページをご覧ください。

本事業のまとめです。

支援を通じて見えてきたこととして、「ヒト」、「カネ」、「モノ」、「情報」、この4つの要素が、脱炭素経営を推進していく上での大きな柱であるということをも再認識いたしました。

具体的なフィードバック内容を、資料下部の枠に3点お示ししております。

まず、事業者の省エネ・脱炭素の取組状況には大きな差があるため、各事業者の段階に応じた支援が必要であるという点です。経営者の意識醸成や取引先からの要請が取組促進に有効だと感じました。

2点目としたしまして、製造業においては、コンプレッサ由来の電力消費が大きいこと、エア漏れ対策などのエネルギーロス削減、いわゆる「ムダ取り」が効果的であるという点です。しかし、エア漏れ箇所の特定に必要な機器が高価であることなどが課題として挙げられます。

3点目としたしましては、策定したロードマップに基づく施策をいかに実行に移すかが重要であり、引き続きフォローが必要であるという点です。施策の実行方法について具体的な提案や事業者マッチングができる体制の整備が必要であると感じました。

8ページをご覧ください。

こちらは参考資料です。

国においても、令和7年度補正予算にて、省エネ支援のマッチングプラットフォーム事業が新設される動きがございます。こうした国の支援策とも連動しながら、市内事業者の支援を進めてまいりたいと考えております。

9ページをご覧ください。

次に、「公共施設のカーボンニュートラル化事業」についてご報告します。

市の事務事業におけるCO2排出量の削減に向け、排出量の多い「市役所庁舎」、「みよし市民病院」、「学校給食センター」の3施設をモデルケースとして選定し、ロードマップ策定に向けた詳細な調査を実施いたしました。

3施設の詳細につきましては、資料下部の表のとおりです。特に市民病院は、市全体の排出量の約27%を占める施設となっております。

10ページをご覧ください。

進め方につきましては、先ほどの事業者支援と同様に、現地調査を経て削減策を洗い出し、現在、各施設の担当課と協議しながらロードマップを作成している段階です。

下のグラフはロードマップのイメージですが、2030年度には基準年度比51%削減、そして2050年のカーボンニュートラル達成に向け、運用改善や設備更新に加え、太陽光発電の導入やCO2フリー電気の活用などを組み合わせていく計画となる見込みです。

11ページをご覧ください。

各施設の主な削減策と課題を整理したものです。

「市役所庁舎」では、空調の制御改善やOA機器の運用見直し、高効率設備への更新などが削減策として挙げられました。照明設備は、平成24年度の竣工時からLED照明を導入しておりますが、性能向上により、LEDからLEDへの更新でも一定の効果があります。

「市民病院」では、空調の制御改善やボイラー空気比の適正化、太陽光発電の導入などが挙げられました。2041年度以降に施設の建て替え、若しくは大規模更新を予定しているため、設備投資については、投資回収期間を慎重に見極める必要があります。

「学校給食センター」では、ボイラーの空気比の適正化や窓ガラスへの遮熱対策が挙げられました。学校給食センターの特徴として、ガス調理器具を使用しているため、3施設の中で唯一ガス由来のCO2排出量が電気由来の排出量を上回っている施設となります。

なお、今回の調査で、運用改善や高効率機器への更新といった「省エネ」の取組で削減できるのは、各施設の排出量の1割程度であることが分かりました。したがって、カーボンニュートラルを実現するためには、足元の省エネを徹底しつつ、再エネ由来の電力購入や、カーボンオフセット都市ガスの導入といった、エネルギー調達面での対策検討が必要となります。

12ページをご覧ください。

「ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業」についてご報告します。

令和7年中に実施したプロポーザルにおいて、大和リース株式会社様を代表とする共同企業体を選定いたしました。

本事業は、みよし市南部の明知町にある後田池の水上を活用して太陽光発電を行い、そこで発電した再エネ100%の電力を、自営線を通じて市民病院へ直接供給するものです。

発電規模は250kW、市民病院の年間電力使用量の約2割を賄う計画となっております。

13ページをご覧ください。

電力調達のスキーム図です。

本事業はオンサイトPPA方式を採用しており、市は初期投資を負担することなく再エネ電力を導入できます。

後田池から市民病院までは、電柱を設置して自営線で結びます。

現在、地元関係者や愛知用水などの関係機関と調整を進めており、令和8年度末の供給開始を目指しております。

14ページをご覧ください。

次に、水素利活用の推進に関する事業です。

<p>(2) 令和8年度の 施策実施内容 橋本主任主査</p>	<p>まず市自身の取組として、給食配送用トラックにFC小型トラックを1台導入し、昨年11月より運行を開始しております。</p> <p>1日約40kmの配送ルートで使用しており、年間約2.2トンのCO2削減効果を見込んでおります。</p> <p>15ページをご覧ください。</p> <p>こちらは、市内事業者向けの導入促進事業です。</p> <p>市内事業者への普及を図るため、国・県の補助金に上乘せする形で、市独自の補助制度を創設しました。本年度は市内事業者3社に計4台のFCトラックをご導入いただきました。</p> <p>また、車両の導入費に対する補助に加え、ランニングコストの課題に対応するため、12月補正予算にて水素燃料費に対する補助制度も新たに創設いたしました。1kgあたり238円を直接市内事業者へ補助するスキームとなっております。</p> <p>16ページをご覧ください。</p> <p>令和7年度下半期の普及啓発事業の実績です。</p> <p>近藤教授をお招きしたゼロカーボンシティ推進研修会、産業フェスタみよしにおける水素ワークショップやMIRAIの展示、そして市内中学生を対象とした「ハピエコ講座」などを実施いたしました。</p> <p>ゼロカーボンシティ推進研修会は、市内事業者や市民、市長をはじめとする市職員などを対象に実施し、約100名が受講しました。</p> <p>産業フェスタみよしでは、トヨタ自動車様のご協力により、MIRAIのカットモデルを展示し、たくさんの参加者に燃料電池自動車の仕組みについて知っていただく機会となりました。</p> <p>また、ハピエコ講座は、市内中学校の2年生を対象に出前講座形式で実施しました。本市出身の村田美穂さんを講師にお招きし、気候変動をはじめとする環境問題について、クイズなどを交えながら楽しく学びました。</p> <p>なお、資料にはございませんが、2月15日にAichi Sky Expoにて開催された「トラックFes2026」に給食配送用FC小型トラックを展示し、大村知事をはじめ、たくさんの来場者の方にFC小型トラックを実際に見ていただきました。</p> <p>以上が令和7年度の振り返りとなります。</p> <p>続いて、「議事(2) 令和8年度の施策実施内容」についてご説明いたします。</p> <p>18ページをご覧ください。</p> <p>令和8年度は、「脱炭素プラットフォーム伴走支援事業」、「ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業」など、これまでの継続事業に加え、新たに「ペロブスカイト太陽電池実証事業」と「公共施設照明のLED化事業」を実施いたします。</p> <p>19ページをご覧ください。</p> <p>まず、「ペロブスカイト太陽電池実証事業」です。</p> <p>次世代太陽電池として注目されるペロブスカイト太陽電池の社会実装に向け、愛知県の実証事業に採択されました。</p> <p>フィールドとなるのは、4月に開園予定であり、市内初のZEB ready基準を満たす木造施設となる城山保育園です。</p> <p>園庭倉庫の壁面にフィルム型のペロブスカイト太陽電池を設置し、発電した電力をドライミストの電源などに活用することで、CO2削減という「緩和策」と、熱中症対策という「適応策」を同時に実現するモデル施設としてPRしてまいります。</p>
---	---

<p>(3) ディスカッション 近藤会長 橋本主任主査</p>	<p>20 ページをご覧ください。 もう一つの新規事業、「公共施設照明の LED 化事業」です。 まだ LED 化が完了していない約 60 施設を対象に、一括リース方式で LED 化を実施します。リース方式を採用することで、初期投資を抑え、財政負担を平準化しながら短期集中的に設備の更新を進める計画です。 また、下段に記載のとおり、家庭用燃料電池システムの補助金についても、卒 FIT 電力の自家消費移行や災害時のレジリエンス強化などを促進するため、補助上限額を 15 万円から 40 万円に拡充する予定をしております。</p> <p>以上が令和 8 年度の施策実施内容となります。</p> <p>ありがとうございました。 それでは、「議事 (3) ディスカッション」に移ります。 事務局よりディスカッションの内容について、説明をお願いいたします。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>22 ページをご覧ください。 ディスカッションのテーマとして掲載しておりますが、皆様への情報共有という位置付けで、本市三好ヶ丘駅前で予定している「福谷北地区まちづくり構想」についてご紹介させていただきます。</p> <p>資料左側の航空写真のとおり、約 16ha を対象に「福谷北地区まちづくり構想」が策定されました。まだ構想段階ではありますが、「エネルギーの地産地消」や「次世代モビリティの活用」が掲げられております。 本協議会での議論とも関わる部分ですので、こうしたまちづくりの動きとも連携しながら、ゼロカーボンシティの実現を目指していきたいと考えております。</p> <p>今後進捗がありましたら、情報共有させていただきます。 先進事例など、引き続き皆様のご知見を頂戴できればと存じます。 よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>近藤会長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、ディスカッションに移りたいと思います。議事 (1) 及び議事 (2) を含め、事務局からの説明に対してご質問、ご意見がありましたらお聞きしたいと思います。</p>
<p>濱林委員</p>	<p>スライド 18 ページの「再生可能エネルギーの利活用拡大」に記載のある営農太陽光発電・ごみ発電について、現時点での方向性を決まっているものがあればご説明いただきたいです。</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>まず、営農型太陽光発電については、令和 4 年度以降の新規案件は 0 件です。 現時点では、事業者による営農型太陽光発電設備の導入を検討いただき、市内で再生可能エネルギーを消費することで、地域の経済循環とエネルギーの地産地消を図る方向性としております。なお、国をはじめ太陽光パネルの設置に関する潮流が変化してきているため、引き続き動向を注視してまいります。 また、ごみ処理施設における発電については、本市、日進市及び東郷町で構成される尾三衛生組合において、令和 16 年度の供用開始を目指し、ごみ処理施設の建て替えに向けた各種議論が進められております。 ごみ発電につきましては長期的な取組として位置付けており、具体的な実施時期や施設整備の詳細につきましては、今後の技術動向やごみ処理施設の更新計画等を踏まえて検討してまいります。</p>

<p>近藤会長</p>	<p>ありがとうございました。次に、本日はご欠席されておりますが、福田委員より事前にご意見をいただいておりますので、事務局よりご紹介をお願いいたします。</p>
<p>水谷ゼロカーボン推進室長</p>	<p>福田委員より3点ご意見をいただいておりますので、私からご紹介させていただくとともに、それに対する市の考え方をご説明させていただきます。</p> <p>1点目はFCトラック事業につきまして、「FCトラックによる給食配送については、小中学生が未来の技術に触れる大変良い機会になっていると感じています。現在は緑丘小学校、北中学校が定期ルートとのことですが、ぜひ他の小中学校にも出張いただき、より多くの生徒が先進技術に触れられる機会を広げていただければと思います。」とご意見をいただきました。</p> <p>本市といたしましても、より多くの児童・生徒が先進技術に触れる機会を拡大することは、環境教育の推進及びゼロカーボンシティ実現に向けた意識醸成において、大変重要であると認識しております。</p> <p>通常の給食配送業務に加え、イベントや環境学習などの普及啓発活動にも積極的にFCトラックを活用することで、環境教育の充実に努めてまいります。</p> <p>2点目は、「7ページの脱炭素事業においては、空調設備の省エネ化や太陽光発電による創エネが、大きな効果を生み出していると認識しました。特に、12ページのため池を活用した再エネ導入では関係者が多く、みよし市が調整役となることで、実現できる取組です。需要家と発電事業者をつなぎ、市全体の脱炭素化がさらに進み、ため池管理者の負担が軽減できるように、引き続き、新規案件にご尽力いただければと思います。」とご意見をいただきました。</p> <p>ため池を活用した再生可能エネルギー導入事業につきましては、本市において初めて取り組む事業であり、本年度に実施したプロポーザルにおいて事業者を選定し、後田池で発電した再生可能エネルギー100%の電力を市民病院へ供給する事業を採択いたしました。</p> <p>本事業の実施にあたりましては、地元土地改良区、営農者、近隣住民、市民病院など、多くの関係者との調整が必要となっており、これらの関係者間の調整役として尽力してまいります。</p> <p>併せて、ため池管理者である土地改良区の負担軽減を図るとともに、高効率な発電とため池の水質保全を両立させることで、地域に貢献できる事業として推進してまいります。</p> <p>3点目は福谷北地区まちづくり構想について、「ご紹介いただき、ありがとうございます。本構想においては、さらに踏み込んで、自然環境を守るエリア（30by30の自然共生サイト）と開発を進めるエリアを一体的に捉え、地域全体がより良い方向へ向かう取組を期待しています。開発された区域だけが恩恵を受けるのではなく、周辺地域、周辺の自然環境も含めてハッピーになれるまちづくりを進めていただければと思います。また、開発エリア内でのエネルギー地産地消によるゼロカーボンの実現にとどまらず、周辺地域も巻き込みながら、みよし北地区全体が脱炭素化へと進むような取組も期待しています。」とご意見をいただきました。</p> <p>今後、福谷北地区のまちづくりに関して、地権者の皆様をはじめ関係者による具体的な議論が進められるものと承知しております。</p> <p>次世代エネルギーの活用やカーボンニュートラルなど環境に配慮したまちづくりの検討もされるものと考えておりますので、市全体への波及効果や自然共生へ</p>

	<p>の取組も含め、引き続き所管課と情報連携を図り、面的な脱炭素化の実現を目指してまいります。</p>
近藤会長	<p>ありがとうございました。 続いて野々山委員お願いいたします。</p>
野々山委員	<p>ため池の太陽光発電についてご質問です。 まず、ため池から農地への給水方式を教えてください。</p>
橋本主任主査	<p>後田池では主に自然流下にて給水しております。 愛知用水やみよし土地改良区と相談をしながら、本来の目的である農地への給水に支障がないように太陽光パネルの設置箇所等を検討している状況です。</p>
野々山委員	<p>もう1点、まちづくり構想に対する質問です。 先導住宅ゾーンにつきまして、輸送や建設時のエネルギー消費などの建設にかかるコストや、最終的に処分されるまでのサプライチェーン全体での環境負荷を考えると、木造住宅に可能性を感じています。 みよし市の省エネに関する住宅の分野において、あまり木造という言葉を見ませんが、この点について何か方針等がありますでしょうか。</p>
橋本主任主査	<p>ご質問ありがとうございます。 先ほど紹介した城山保育園は木造建築であり、断熱対策を工夫したことで ZEB ready 基準を満たした建築物となりました。 現在、国において断熱性能の基準を段階的に引き上げており、こういった住宅に関する省エネの動向も確認しながら、議論を進めてまいりたいと考えております。</p>
海堀経営企画部長	<p>みよし市におきましては、建築物に対する木造利用の促進に関する方針を平成25年に出しております。市内建物の木質化も市の施策の一つであるため、そちらにも目を向けつつ、様々な可能性を検討してまいりたいと思います。</p>
山田委員	<p>例えば木造の場合は現場で作業することが多く、職人の方が頻繁に現場に来られるため、その際の車移動でCO2排出があります。鉄骨であれば約85%を工場で作った後に運ぶことができます。このような工夫により鉄骨住宅でも十分に環境によい建物ができると思います。</p>
近藤会長	<p>ありがとうございました。他にご意見はありますか。</p>
片岡委員	<p>まちづくり構想に関して、すばらしい取組だと思います。これについて、スケジュールとしては足の長い取組になると思いますが、協議体のようなものをつくるなど、どういう形で検討していくのかを教えてください。</p>
橋本主任主査	<p>現在、構想はできている状況ですが、来年度以降にまちづくり基本計画の策定や、地権者の同意、民間事業者様へのヒヤリング等を実施し、どのようなまちにしていくかを具体的に検討していく予定です。 所管課にてコンサルタント支援のような形で事業者様に依頼している部分もございますので、まずはそういった方との相談を通じて様々な事例を収集し、より良いまちづくりを検討してまいりたいと考えています。</p>
片岡委員	<p>具体的な時期等は決まっておりますでしょうか。</p>

橋本主任主査	<p>令和8年度以降に地権者の同意を得て、令和9年から令和11年に向けて事業計画の策定を進め、令和12年度以降に組合が設立される予定です。</p>
海堀経営企画部長	<p>現在、地元の地権者の方に向けた勉強会を実施しております。今年度中または来年度初めで、本事業の仮同意となる予定です。正式に確定しているものではありませんが、エネルギー関連に対する視点として、環境に配慮したまちづくりを進めていくことは市として動かし難いものであると思っております。</p>
野々山委員	<p>多機能型賑わいゾーンのところに「大学、市民、企業、行政等の共創により」と記載がありますが、資料を見ると地元大学の生徒が優先的に採用されるのではと感じました。みよし市に居るのは地元大学の生徒だけではなく、市を良くしたいとか、地元で愛着を持った20代はたくさんいると思うので、広く人を募っていただきたいなと思います。</p>
水谷ゼロカーボン推進室長	<p>市といたしましても、地元大学だけではなく幅広い意見を活用していくべきであると思っておりますので、担当部局にもいただいたご意見を伝えさせていただきます。</p>
杉山副会長	<p>野々山委員のおっしゃるとおり、広く市内の若者世代に呼び掛けていただければと思います。一方で、ここに隣接する大学の学生は駅に向かう途中に通りますので、うまく巻き込んでいただければと思います。</p> <p>また、今年度の秋の授業で市職員の方にみよし市の取組を紹介していただいたところ、学生から大変反響がありました。SDGsや脱炭素など知識として学んでいたことが現実的に実施されていることに対し、驚きとSDGsについて考える良い機会となった、との感想が多くありました。ぜひ今後もお願いできればと思います。</p> <p>まちづくり構想に対し、福田委員の意見に自然共生という言葉がありました。脱炭素において、最先端の技術導入だけに偏ってしまわないよう、ただ開発ではなく、自然と共生する観点など多角的に考えた新しい時代の開発をしていただきたいと思っております。</p> <p>もう一点、伴走支援事業についての意見です。ぜひ継続していただきたいと思っておりますし、こういった中小企業の取組の底上げは効果が高いと思っております。</p> <p>ヒト、モノ、カネ、情報が課題だというのはいろいろなところで言われていますが、お金の支援はどのように実施されていくのでしょうか。</p> <p>また、この伴走支援を経て効果が出た中小企業には、ぜひ成功事例をフィードバックしていただき、市内事業者の方々を巻き込んで後に続くような展開を考えていただけると良いと思いました。</p>
橋本主任主査	<p>まず、大学での授業につきまして、学生により身近に感じてもらえるよう、企画政策課及びゼロカーボン推進室の若手職員が登壇させていただきました。そういった反響があったことを登壇した職員に申し伝えたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>次に、まちづくり構想につきまして、脱炭素だけではなく資源循環・自然共生も重要になると認識しております。</p> <p>開発予定地内には境川という川が流れておりますので、自然共生の面でもポテンシャルがあると考えております。全国でも、川の周辺に公園などの人が集まる場所をつくることにより、まちが活性化する事例もございます。</p> <p>脱炭素やエネルギーについて考えるとともに、偏ったまちづくりにならないよう検討を進めてまいりたいと思っております。</p>

<p>松尾委員</p>	<p>最後に、伴走支援事業につきまして、事業者の方々と話している中で、やはり「カネ」の部分は今後の課題であると感じました。エネルギー価格が高騰している中での空調代に加え、新たな設備投資となると、事業者様によってはそこまで手を回すことができないのが現状です。</p> <p>例えば運用改善として、コンプレッサの配管漏れを確認するための機器が高額であるため、市が機器を購入し、貸し出し等をできるようにするのも一つの支援策であると考えます。他にも、補助金の活用や、金融機関の方との相談を通じて金融支援策なども検討していきたいと思います。</p> <p>市といたしましても、事業実施後に良い事例があれば、少しずつでも市内事業者の方々に横展開していきたいと考えております。</p>
<p>橋本主任主査</p>	<p>脱炭素プラットフォームにつきまして、製造業にとって大事な取組であり、企業の体質強化に繋がると思います。</p> <p>ヒト・モノ・カネが大切ですが、一方で、実際にやろうとすると意識付けからCO2を見える化して分析し、対策するまでの領域が広がります。そして、提供するのには市町村や銀行となり、経営資源が大切だけど分散している点が構造上大きな課題であると感じています。</p> <p>これに対して、ここで触れているマッチングプラットフォームというのはとても重要であると思います。みよし市だけではなく、大きな枠組みの中でヒト・モノ・カネの整合性が取れるように進めていくことが大切になってくると思います。</p>
<p>長谷川様</p>	<p>現在、本事業を進めている事業者の方からも、どこに相談すればよいか分からないというご意見をいただいております。そのため、国が新たに実施するこのマッチングプラットフォームに対し本市も期待をしております。</p> <p>実際に市だけでの実施ではインパクトが限られるため、国・県・市町村が連携し、いかに広げていくかを検討していきたいと思います。</p>
<p>橋本主任主査</p>	<p>制度はまだ詳細に決まっておりませんが、ウォークスルー診断やIT診断などを実施した後のアクションに対する課題に答えられるよう、このマッチングプラットフォームを創設いたしました。</p> <p>中小企業の診断結果と支援企業のソリューションをそれぞれ項目化し、繋げることで、今まで進みにくかった具体的なアクションを進めていくことを目的としております。</p> <p>これを見据え、来年度の伴走支援において活用していただければと思います。</p> <p>併せて質問ですが、来年度の伴走支援も今年度同様3社を公募される予定でしょうか。また、国のウォークスルー診断やIT診断、伴走支援との関係性・関連性についてお考えがあれば教えていただきたいです。</p>
<p>長谷川様</p>	<p>来年度も市の独自予算で3社の募集を予定しております。</p> <p>また、国及び県においても中小企業に対する支援を実施しておりますが、市として実施することで1社でも多く支援できればと考えております。現在、県の脱炭素プラットフォームの会議体に参加させていただいておりますので、県の支援状況等も考慮しながら市内事業者様向けに事業を継続して実施していきたいと存じます。</p> <p>ありがとうございます。また、支援する側の人材育成やスキルの向上も重要であると考えておりますので、併せて市の取組があればより良い事業となると思います。</p>

濱林委員	<p>脱炭素プラットフォーム事業への意見です。</p> <p>この1、2年の間でお客様から暑熱対策についてのご相談が急増しています。暑熱対策ができないと人が集まらない傾向になってきていると感じます。</p> <p>この伴走支援の中でも太陽光パネル等だけでなく、暑熱対策も含め幅広く相談受付をしていただくと、事業の更なる発展に繋がると思います。</p>
橋本主任主査	<p>実際に、伴走支援をさせていただいた事業者様から、暑熱対策についてのご相談がありました。事業者様の取組状況に応じて調査から導入支援まで一貫通貫で実施することが、事業者様にも喜んでいただける支援事業になると考えております。まだ具体化できておりませんが、支援内容を絞り、各事業者の課題に特化した支援をしていくことも必要であると考えております。</p>
山田委員	<p>普及啓発についてです。弊社では社宅を壊し、民間の賃貸を増やす指示が出ております。空き地を持っている方にアパート・マンションの建築を普及する活動を行っております。なかなかこのような情報が得にくい中で、金融機関の方のご協力によりご紹介いただいております。</p> <p>このように、市が独自で普及啓発をするのではなく、金融機関に市の取組を紹介し、事業者様に案内してもらうことも一案かと思っております。</p>
恒川委員	<p>ペロブスカイト太陽電池実証事業につきまして、大変先進的な取組であると思っております。市として、保育園以外にフィールドを提供して今後進めていく計画はありますでしょうか。</p>
橋本主任主査	<p>本事業は県が主体となり、公共施設及び民間企業への導入実証ということで応募させていただきました。市といたしましても、本実証のみで終わるのではなく、得られた知見を活かして公共施設や市内事業所、住宅等にも横展開できればと考えております。</p> <p>また、国においても新たにペロブスカイトに関する補助制度が創設されましたので、他の施設への設置検討も進めてまいりたいと思っております。</p>
長谷川様	<p>FC 小型トラックの導入促進事業につきまして、令和8年度の予定などありましたら教えていただけますでしょうか。</p>
橋本主任主査	<p>今後も水素需要の拡大に向けて取組を実施していく所存ですが、来年度はメーカーの都合により導入予定はございません。</p> <p>県においては2030年までにFC商用車を7000台導入する目標があり、引き続き市といたしましても連携していきたいと考えております。</p>
近藤会長	<p>他にご意見がないようですので、私からコメントさせていただきます。</p> <p>まず伴走支援につきまして、中小企業に対するこのような取組は必要であると思っております。ただ、こういった事業はやりっぱなしになってしまう傾向にありますので、管理できるようにしていただくべきであると思っております。せっかく省エネをしたにも関わらず、3年から5年経つと機器不良等により元に戻り、同じ省エネを繰り返すということがあります。中小企業は資金が潤沢にあるわけではないので、管理・指導をしていくことが大切であると考えます。</p> <p>次に、ペロブスカイトの実証事業につきまして、屋外に設置するのも良いと思いますが、低照明でも発電できるためブラインドのように会議室等の屋内に設置することで、見える場所も増えると思っております。幅広い場所で簡単に活用できるメリットを生かし、ぜひ市民の目に見えるようにすることで普及啓発に繋がっていただければと思います。</p>

	<p>また、FCトラックについてです。FCトラックは水しか排出しない一方で、緊急時に発電機能が使用できます。普及啓発として、環境に良く、いざというときに自分たちの身を守ってくれる道具でもあるため、緩和と適応の両方に属しているということを伝えられると良いと思います。</p> <p>最後に、まちづくり構想につきまして、インフラ事業は震災時を想定し、国交省においてもネットワーク型ではなく分散型を推進しています。エネルギーシステムの中でもフェーズフリーな分散システムを推奨する話が出てきています。ネットワーク型と分散型を考え、常時と非常時を含めたものを導入することができると良いと思います。併せて、地域のエネルギーマネジメントもできると良いと思います。まちの賑わいと一緒に緩和と適応のシステムが混ざっているものが見えてくると、より議論も深まると思います。</p> <p>また、みよし市らしいまちづくりができれば良いと思いますが、営農型PVの普及があまり進んでいない原因は何かありますでしょうか。</p> <p>例えば営農型PVをした方が収穫量が上がったという地域もありました。近くに工場があれば再エネ電力を供給でき、両方にメリットとなります。</p>
橋本主任主査	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>営農型PVは本市において0件で推移しています。申請があったのは令和4年度以前になり、個人で設置しFIT制度により投資回収ができるスキームが可能であった頃であると思います。そのため、要因としては、昨今のFIT価格の低下や営農型PVに対する知識・関心不足などが考えられます。我々といたしましても進め方については課題として認識しております。</p>
野々山委員	<p>農家について、お米は儲からないと聞きます。一般の方はお米の値段の高騰により、農家は儲かっているのではと思うかもしれませんが、作りはじめから実際にできるまで、時間とお金がかかかります。そのため、農家の方々は営農PVを設置するための費用を捻出できないと思います。</p> <p>みよし市では柿梨ぶどうが特産品として作られていますが、太陽光パネルは適さないように思います。例えば、ぶどうはハウス農園が多く、簡素な骨組みでできているため太陽光パネルをのせることはできません。梨や柿はワイヤーで棚を作り、手が届きやすい位置に木が伸びるようにしています。どの畑を見ても太陽光パネルをのせるのは向かないと思います。</p> <p>そのため、農家に対しては、剪定した木や枝を集めてチップにしたり、ごみ処理場へ持って行ったりするような取組の方が有効であると考えます。</p>
杉山副会長	<p>私に関わっている適応に関する研究プロジェクトでは、農家の方が太陽光パネルを設置するメリットの一つとして、熱中症防止対策において一定程度の効果があったとしています。太陽光パネルを屋根のように敷き詰めるのではなく、ソーラーシェアリングといってある程度角度をつけることで太陽光も入りつつ影もつくることができます。農作物によって角度を調整できるので、こういった設置の方法も可能です。今は必要ないかもしれませんが、日焼けが問題になっている果物もありますので、将来的には可能性が出てくるかもしれません。</p> <p>また、全てを農家の方がやらなくても良いと思います。設置は他者で行い、農地の上の空間を農家の方が貸すなど、方法はいろいろあります。</p>
近藤会長	<p>農家の方も中小企業と同じように、そういったところを検討しようという人材がいらないと思うので、農家の方に対する伴走支援もできると良いと思います。また、杉山副会長がおっしゃったようなマッチングの方法や、他市では屋根貸しの事例もありますので、次の例を一つでも出せるよう検討ができればと思います。</p> <p>それではお時間となりましたので、以上でディスカッションを終わります。</p>

<p>3 閉会 水谷ゼロカーボン推進 室長</p>	<p>本日はご多忙の中、ご出席いただき誠にありがとうございました。 なお、令和8年度のゼロカーボンシティ推進協議会につきましては、第1回を9月から10月頃に開催を予定しております。 以上をもちまして令和7年度第2回みよし市ゼロカーボンシティ推進協議会を終了いたします。 本日は誠にありがとうございました。</p>
-----------------------------------	--